

ラーニング・コモンズはどのように利用されているか：三重大学における事例調査

三根慎二（三重大学 人文学部） mine.shinji@mie-u.ac.jp

1. はじめに

日本の大学図書館においても、ラーニング・コモンズの設置が進んでいる。『複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場』』としての機能¹⁾が、大学図書館の役割・機能を再構築するものとして注目されている。

ラーニング・コモンズに対しては、設置意義をはじめとして、様々な点が議論になっている²⁾。現在の日本の状況は揺籃期にあり、設置済・未設置大学を問わず、ラーニング・コモンズの設置の有無、図書館の関与形態、サービス内容・提供体制等を模索している段階と考えられる。

そうした状況（特に設置済みの大学図書館）において、ラーニング・コモンズ自体の意義を確認し、サービス内容・体制を考案・向上させていくためには、利用者の利用実態の把握は基本であり必要であると考えられる。そうした種類の報告³⁾や調査⁴⁾がなされつつあるが、緒についたばかりである。

本研究の目的は、三重大学ラーニング・コモンズが利用者にどのように利用されているかを、観察調査を通して実証的に明らかにすることである。

2. 調査方法

2.1 観察調査の概要

調査は、三重大学環境・情報科学館 2F に設置されたラーニング・コモンズで行った。調査期間は、2012年6月26日（火）から28日（木）の9時から17時半である（天気は、順に曇/薄曇/雨のち曇）。

各利用者に対して、30分間隔で、以下

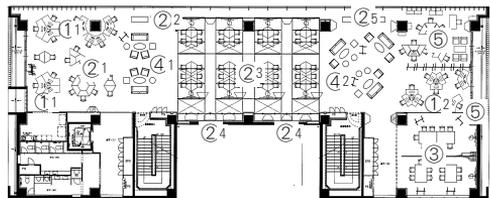
の調査項目を調査員（三重大学人文学部の学部生7名）がチェックリストをもとに確認した。さらに、フロアに設置された監視カメラによって、利用の様子を録画も行った。

調査項目は、立石⁵⁾の調査枠組みに基づいた1)滞在場所、2)利用行動、3)利用物、4)個人・グループ利用の四項目である。各項目の下位項目については、三重大学の状況に合うように変更した。

なお、調査員はラーニング・コモンズの概要・機能を理解しており、観察調査の事前テストを行うことで、調査結果に可能な限りばらつきが出ないようにした。

2.2 三重大ラーニング・コモンズの配置

三重大学ラーニング・コモンズのフロアマップ（第1図）をもとに、各スペースについて説明する。なお、全てのエリアで無線LANが利用可能であり、PCステーション以外は、飲食可能である。



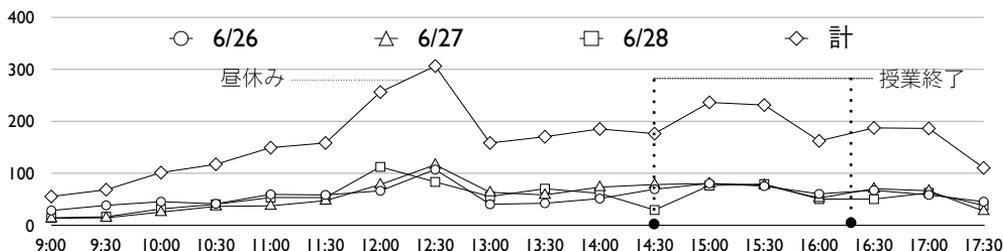
第1図. フロアマップ

① PCステーション（1・2）

インターネット接続可能なパソコンが20台設置されている。

② グループ学習エリア（1～5）

可動式の机・椅子があり、図の中央部のエリアには、ホワイトボード、プロジェクタ、電子黒板（SMART Board）が設置されている。



第2図. 利用件数の推移

③ グループ学習室

可動式の大型机, 椅子, 電子黒板が設置されている。

④ ソーシャル・エリア (1・2)

ソファ, ベンチ, 学習法関連図書, 辞書等が設置されている。

⑤ 相談窓口・就職支援エリア

就職支援関連の情報提供, 常駐スタッフによる相談窓口が設置されている。

第1表. 利用者の滞在場所

滞在場所		利用件数	
PC	PCステーション1	582	924
	PCステーション2	342	
グループ	グループ学習エリア1	201	1,557
	グループ学習エリア2	71	
	グループ学習エリア3	852	
	グループ学習エリア4	222	
	グループ学習エリア5	38	
	グループ学習室	173	
ソーシャル	ソーシャル・エリア1	227	504
	ソーシャル・エリア2	277	
その他	就職支援	25	
	相談窓口	1	
計			3,011

3. 調査結果

調査の結果, 3日間で3,011件の事例を確認した(異なる調査時間でも同一人物を確認している場合もあるため, 以下全ての数値は異なり人数ではなく件数としている)。

3.1 全体的な傾向

3.1.1 利用件数

3日間の利用件数の推移を表したものが第2図である。午前中から昼休みにかけて件数が一日の最大に達し, その後は授業終了(15:00-15:30, 16:30-17:00)に合わせて利用件数が上昇する傾向にあることがわかる。

3.1.2 滞在場所

利用者の滞在場所を見ると(第1表)グループ学習エリア(1557), PCステーション(924), ソーシャル・エリア(504)の順に多く利用され, 相談窓口・就職支援エリアは低調であることがわかる。個別エリアでは, 最も面積が広いグループ学習エリア3に次いで, PCステーション1・2, ソーシャル・エリア1・2が多く利用されている。

3.1.3 利用行動

利用者の利用行動(第2表)は, 「話し合い・雑談」が最も多く, 「勉強」, 「PCでレポート作成」, 「PC・携帯使用(詳細不明)」, 「飲食」, 「インターネット/メール」が特に多い。なお, ここでの「勉強」は, 「机に向かって資料等を利用しながら作業をしている」とした。

3.1.4 利用物

利用者の利用物(第3表)は, 「プリント・ノート」が最も多く, 「PC(備付)」, 「飲食物」, 「持込資料」, 「携帯電話」, 「PC(持ち込み)」が特に多い。一方で, 「図書館資料」, 「電子黒板」の利用はわずかであった。

第2表. 利用者の利用行動（複数確認）

利用行動	件数
話し合い・雑談	1401
勉強している	774
PCでレポート作成	552
PC・携帯使用（詳細不明）	247
飲食	243
インターネット/メール	213
音楽を聴いている	86
睡眠	64
本を読んでいる	60
機器類の充電	47
待ち合わせ・時間つぶし	39
映像を見ている	32
その他	27
PC/携帯ゲームの利用	26
プリントアウト	17
何か書いている（勉強以外）	11
電話で話している	8
順番待ち	5
雑誌・漫画を読んでいる	6
パンフレットを読んでいる	1
カウンターで相談	1
化粧をしている	1

第3表. 利用者の利用物（複数確認）

利用物	件数
プリント・ノート	897
PC(備付)	868
飲食物	859
持ち込み資料	720
携帯電話	524
PC(持ち込み)	395
ヘッドフォン・イヤフォン	279
音楽プレーヤ	104
プロジェクタ	61
電子辞書	56
電子黒板	33
図書館の資料	21
携帯ゲーム機	21
玩具（トランプ）	21
工作用品（コップ・折り紙等）	16
ホワイトボード	14
その他	14
パーテーション	10
タブレット端末	5
電卓	3

第4表. 本調査における学習目的の利用

「勉強している」「PCでレポート作成」「本を読んでいる」

「PC」、「ホワイトボード」、「電子黒板」、
学 「プロジェクタ」、「図書館の資料」、「持
習 ち込み資料」、「電子辞書」、「電卓」、「プ
リント・ノート」のいずれか

+

「話し合い・雑談」

のように分類し、少なくともこの条件を満たしている利用行動・利用物の組み合わせを学習目的の利用とした。非学習目的の利用は、それ以外の行動とした。

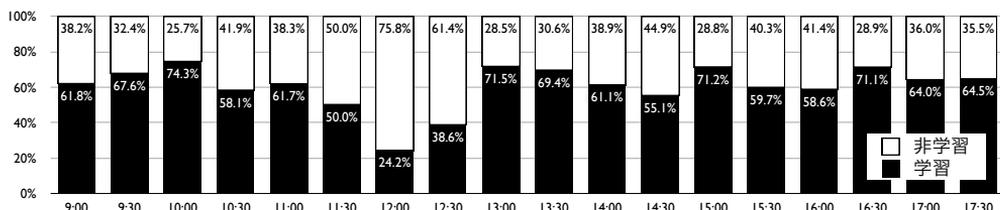
その結果、昼休みを除いて、学習目的の利用が非学習目的の利用と同等か上回

3.2 学習の有無と個人・グループ利用から見た利用実態

先に述べたように、ラーニング・コモンズは、学生の学習を支援する空間であり、そこでは個人よりもグループ学習での利用が想定されていると考えられる。以下では、1) 学習目的・非学習目的の利用および2) 個人・グループ利用という観点から、利用実態を見ていく。

3.2.1 学習目的および非学習目的の利用

本調査では、学習目的の利用を第4表



第3図. 学習目的利用と非学習目的利用の推移

る結果となっている。多くの利用者は学習目的でラーニング・コモンズを利用していると考えられるが、常に25%から45%の非学習目的の利用者が存在していることがわかる（第3図）。

3.2.2 個人およびグループ利用

本調査では、個人利用を単独利用、グループ利用を2名以上での利用とした。その結果、計712グループが確認でき、1グループは平均2.9名で（最大値10）、3日間全てにおいてグループ利用の件数が個人利用を上回っており、その比率は約7:3であった（第5表）。

大部分の利用者は、2名以上のグループで利用しており、ラーニング・コモンズが想定している利用形態を取っていることがわかる。

第5表. 個人利用とグループ利用

	個人	グループ(グループ単位)
6/26	332	697(234)
6/27	290	720(248)
6/28	323	649(220)
計	945	2066(712)

3.2.3 学習・非学習利用と個人・グループ利用との関係

第4表から、個人による学習目的の利用は、PCステーション1・2とグループ学習エリア4で行われ、グループ学習はグループ学習エリア3とPCステーション1・2で行われていた。非学習利用は、個人では同じ場所で行われる傾向にあるが、グループではソーシャル・エリアが頻繁に利用されていることがわかる。

4. 結論

以上の結果から、三重大学ラーニング・コモンズにおいては、1) 多くの利用者による何らかの学習が行われているものの常に一定数の非学習利用も生じている、2) 就職支援・相談窓口の利用は

第6表. 学習・非学習利用と個人・グループ利用との関係（滞在場所）

	個人			グループ			計
	学習	非学習	計	学習	非学習	計	
PC1	217	147	368	190	24	214	582
PC2	110	60	170	149	23	172	342
グ1	48	39	87	42	72	114	201
グ2	18	14	32	25	14	39	71
グ3	29	22	51	488	313	801	852
グ4	101	58	159	34	29	63	222
グ5	3	11	14	0	24	24	38
グ学習室	10	3	13	105	55	160	173
ソ1	5	16	21	67	139	206	227
ソ2	5	16	21	84	172	256	277
就職支援	3	5	8	2	15	17	25
相談窓口	0	1	1	0	0	0	1
計	549	392	945	1186	880	2066	3011

低調である、3) グループ利用が個人利用よりも多い、4) 学習が行われる場所は利用目的および形態によって異なることがわかった。実際に利用者による学習は生じ、ラーニング・コモンズが想定している学習形態が、おおむね利用者にとられており、学習場所としては一定程度機能していると考えられる。

謝辞

本調査にご協力頂いた、三重大学附属図書館および同研究開発室の皆さま、および三重大学人文学部学部生各位に感謝いたします。

引用文献

1. 文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会. 大学図書館の整備について（審議のまとめ）－変革する大学にあつて求められる大学図書館像－. 2010. 73p.
2. 加藤信哉, 小山憲司. ラーニング・コモンズ：大学図書館の新しいかたち. 勁草書房. 2012. 288p.
3. 津村光洋. 鳥取大学附属図書館のラーニング・コモンズ. 鳥取大学教育研究論集. 2011. p.97-102.
4. 毛利志保, 加藤彰一, 長澤多代, Fahed Khasawneh. 大学図書館ラーニングコモンズにおける利用実態調査. 大学教育改革フォーラム in 東海. 2012. <http://miuse.mie-u.ac.jp/handle/10076/1202> (参照 2012-09-17)
5. 立石亜紀子. 大学図書館における「場所としての図書館」の利用実態. Library and Information Science. 2012. vol.67, p.39-61.
6. 立石亜紀子. 大学図書館における「場所としての図書館」の利用実態：横浜国立大学附属図書館における観察調査. 2009年度三田図書館・情報学会研究集会. 2009. p.5-8.